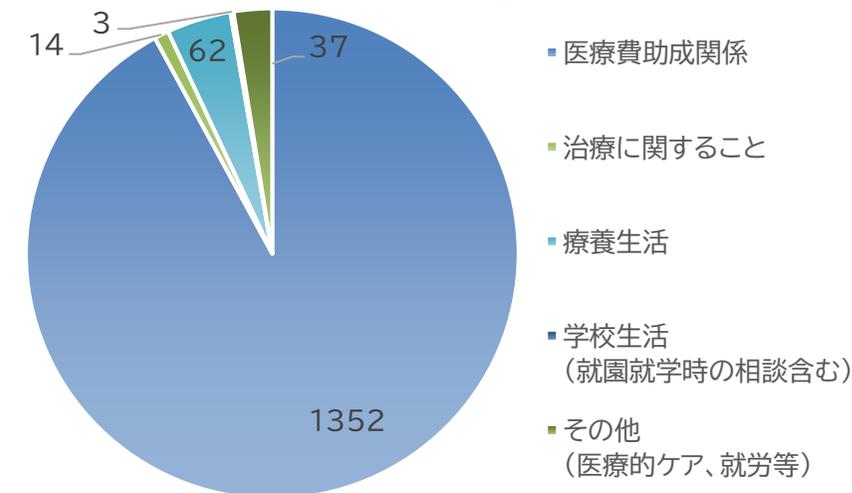


【R7年度県内保健所における相談内容・種別の割合】



【R7年度県内保健所における相談件数】(4月～12月実績)

相談内容／相談種別	電話相談		面接相談		その他 (メールなど)		訪問		合計	
	実	延	実	延	実	延	実	延	実	延
医療費助成関係	408	439	794	911	1	1	1	1	1204	1352
治療に関すること	3	4	10	10	0	0	0	0	13	14
療養生活	16	24	12	12	2	10	10	16	40	62
学校生活 (就園就学時の相談含む)	0	0	2	2	0	0	1	1	3	3
その他 (医療的ケア、就労等)	10	21	13	14	0	0	2	2	25	37
合計	437	488	831	949	3	11	14	20	1285	1468

### <事業実施状況>

#### 1 相談支援事業

小児慢性特定疾病自立支援員を各保健所及びNPO法人NEXTEPにそれぞれ1名ずつ配置(兼任)し、受給者からの相談に応じている。  
 ※上記の相談支援事業の他に、交流会やワークショップ等を年に数回開催している。

##### <保健所の活動事例>

- ・退院前に地域の関係者に呼びかけを行い、ケース会議を実施している。(退院前カンファレンス)
- ・児の疾病や将来について不安が強いケースや保護者に持病等があるケースなどは継続的に市町村保健師と一緒に訪問を行っている。
- ・家庭訪問により機器の使用についての悩みを把握。保健所からメーカーに問合せを行い、保護者への説明を依頼した。
- ・人工呼吸器装着児の家庭における災害時の準備状況について情報収集を行い、市町村保健師と情報共有を行っている。
- ・管内市町村が実施した災害訓練(防災ドライブ)に参加。企画会議や当日の訓練に参加し、助言等を行った。

※その他、家庭訪問や来所された保護者への相談票を用いた聞き取り、災害時の状況確認を行っている。

#### 2 実態把握事業(回答率:13.9%)

昨年度の協議会で災害時の連携の在り方の意見が挙がったことや近年の災害の発生頻度等を鑑み、調査項目に「災害時の対応について」聞き取りを行う項目を追加。また、回答率を上げるために医療機関等へアンケート周知依頼を実施。

#### 3 小児慢性特定疾病自立支援員を対象とした研修会

小慢窓口担当職員を対象とした地域資源の連携に着目した研修会を実施。関係機関としてNPO法人、相談支援センター、教育委員会等に参画いただき事例検討を実施。※厚生労働省が実施している立ち上げ支援のモデル事業に応募し、支援対象自治体として採択され取組むもの。

小児慢性特定疾病児童等自立支援事業立ち上げ支援

<概要>

・自治体における小児慢性特定疾病児童等自立支援の実施を推進することを目的として、自立支援の立ち上げ・見直しを外部有識者の助言を受けながら実態把握調査から施策の検討まで、伴走支援を行う。

<実施事業者>

PwCコンサルティング合同会社(厚生労働省委託)

- ・最大10程度の希望自治体に対して行うもの
- ・熊本県・熊本市が採択され、共同で支援を受けている。



実態（ニーズ）  
把握調査の実施



課題抽出・施策の  
検討



自立支援事業の  
提案

地域資源連携に係るモデル事業

<概要>

・関係機関との連携、他制度との連携や調整といった「連携」に特化した支援を行う。

<実施事業者>

PwCコンサルティング合同会社(厚生労働省委託)

- ・最大3程度の希望自治体に対して行うもの
- ・熊本県が採択され、熊本市も一緒に支援を受けている。

地域資源連携に係るモデル事業

R6

実態把握調査の結果分析、自立支援員に対するスキルアップ研修運営の支援を受ける

<熊本県の連携における課題及び令和6年度地域支援協議会での御意見>

- ・医療機関やNPO法人、相談支援センターと連携できる体制が整備されていない
- ・「自立支援員が地域資源を把握し、相談内容に応じて、適切な機関へ繋ぐ役割が求められる」、「関係機関同士で顔の見える関係作りが重要である」といった御意見

R7

昨年度の支援に加え、地域資源連携に係るモデル事業の支援を受ける。講義及び実際の事例を想定し、関係機関と事例検討を行う研修会を実施。

<支援の内容>

ステップ1

関係機関の洗い出し

ステップ2

研修会の開催

ステップ3

研修会に関する  
効果検証

### 【目的】

- ・知識及び資質・モチベーションの向上

### 【日時】

令和7年1月9日 13時～16時

### 【参加者】

- ・保健所において、小児慢性特定疾病児童等自立支援事業に従事している職員

### 【研修会プログラム】

時間 (計3時間)	カリキュラム	登壇者
13:00～13:05	5分 開会挨拶	熊本県
13:05～13:25	20分 【講義】自立支援員に必要な知識	PwCコンサルティング 水谷
13:25～13:27	2分 登壇者のご紹介	熊本県
13:27～14:07	40分 【講義】支援現場の実態と自立支援員としての心構え	認定NPO法人NEXTEP 代表 島津 智之 様
14:07～14:12	5分 休憩	-
14:12～14:14	2分 登壇者のご紹介	全体司会
14:14～15:04	50分 【講義】小児慢性特定疾病児童の生活やニーズの実態	くまもとばれっと 佐藤 萌 様、 廣瀬 なぎさ 様、谷口 あけみ 様
15:04～15:09	5分 休憩 (グループワーク準備)	-
15:09～15:59 (ワーク40分、講評10分)	50分 【グループワーク】自立支援員としてできる支援の検討	PwC 水谷 (全体説明) NEXTEP 島津先生(講評)
15:59～16:00	1分 閉会挨拶	熊本県

R6

### 【目的】

- ・関係機関との連携ができる体制づくり
- ・担当者との顔合わせと連絡先の把握

### 【日時】

令和8年2月9日 14時～16時30分

### 【参加者】

- ・保健所において、小児慢性特定疾病児童等自立支援事業に従事している職員
- ・NPO法人、障害福祉、教育、就労における関係機関

### 【研修会プログラム】

時間 (計2時間半程度)	カリキュラム	登壇者
14:00～14:05	5分 開会挨拶	熊本県
14:05～14:20	15分 【講義】保健師の役割と連携の重要性	PwCコンサルティング 当新
14:20～15:00	40分 【講義】当事者の方が抱える悩み	くまもとばれっと 陶山様・長廣様
15:00～15:20	20分 【講義】ニーズ・悩みの聞き方	ラ・ファミリエ 西様
15:20～15:30	10分 休憩	-
15:30～16:20 (説明5分、ワーク45分)	50分 【グループワーク】ケースを通した「頼れる人マップ」の作成 ※次項に詳細なタイムラインを記載	PwCコンサルティング
16:20～16:28	8分 ケース検討の共有	ラ・ファミリエ 西様
16:28～16:30	2分 閉会挨拶・アンケートの周知	熊本県 PwCコンサルティング

R7